

令和 3 年度 事業報告 (案)

一時預かり事業 さくらルーム					
稼働状況			令和 3 年度	令和 2 年度	前年度対比
	一 時	実績人数	1,077名	1,123名	-46名
		目標人数	2,400名	2,400名	—
		差 異	-1,323名	-1,277名	—
重点項目	① 第 4 期経営 5 か年計画 (3 年目) の推進 ② 子どもの一人一人の育ちを尊重した保育の徹底 ③ 子ども主体の保育及び教育的視点を持った保育の充実 ④ 地域の子育て支援活動の充実 ⑤ 職員が成長する職場づくり				
総 括	<p>本年度は、西宮市から西宮市立こども未来センター一時預かり事業者として、委託契約の 6 年目となり、当法人の基本理念に基づき第 4 期経営 5 か年計画の 3 年目として、法人保育園 6 園の協力のもと、以下の事業を取組むべき計画を立てスタートしたが、昨年度からの「新型コロナウイルス感染拡大対策」のもとでの保育となった。「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」発令下での保育となるので、引き続き、預かり数はセンターと話し合い 1 日 4 名を続行した。結果、事業推進は難航した。</p> <p>事業運営状況は、令和 3 年度の登録者数 490 名、年間運営日数 244 日、延べ申込者数 1,148 人、延べキャンセル数 194 人、延べ実利用者数 1,077 人、利用率 93.8%、一日平均利用者数 4.4 人であり、予算達成はできなかった。</p> <p>③ 子ども主体の保育及び教育的視点を持った保育の充実 「緊急事態宣言」が解除となっても「まん延防止等重点措置」の発令が長引き、1 日の預かりは 4 名が続いた。保育においては、子どもたちの健康確認を保護者とともに丁寧に行い、保育を実施した。預かり時間内の活動は、「ふれあいあそび」と「自由あそび」「制作あそび」を行った。「制作あそび」は毎月季節を感じる題材を選び、年齢に応じた制作活動を用意した。活動中の様子から発達の確認も行った。子どもたちは意欲的に活動に取り組み、出来上がった作品を保護者に見せる姿は自信にあふれていた。帰宅後も作品を介して親子の会話が弾むとの報告をたくさん受けるので、次年度も引続き行う。</p> <p>④ 地域の子育て支援活動の充実 さくらルームの適正な運営をめざし、こども未来センターと預かり状況について定例会議を開催したが、コロナ禍の下では延期・中止もやむを得なかった。子どもの育ちを共有し、保護者のニーズに合った、かつ、新型コロナウイルス感染予防対策にも十分配慮した環境での預かり体制を整えることができた。預かり体制については、西宮市から信頼を得ているが、適正運営が確保できるように協議をより一層重ねていかなければならない。</p>				

令和3年度

事業報告書

一時預かり事業 さくらルーム

《基本理念》

- ① 公益的事業の積極的取組み
- ② 人権を擁護する
- ③ 発達支援・自立支援に向けたサービスの確立
- ④ 医療・教育・福祉の連携強化
- ⑤ 地域社会との共生

本年度は、西宮市から西宮市立こども未来センター一時預かり事業者として、委託契約の6年目となり、当法人の基本理念に基づき第4期経営5か年計画の3年目として、法人保育園6園の協力のもと、以下の事業を取組むべき計画を立てスタートしたが、昨年度からの「新型コロナウイルス感染拡大対策」のもとでの保育となった。「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」発令下での保育となるので、引き続き、預かり数はセンターと話し合い1日4名を続行した。結果、事業推進は難航した。

事業運営状況は、令和3年度の登録者数490名、年間運営日数244日、延べ申込者数1,148人、延べキャンセル数194人、延べ実利用者数1,077人、利用率93.8%、一日平均利用者数4.4人であり、予算達成はできなかった。

1 第4期経営5か年計画（3年目）に取り組む

本年度は、第4期経営5か年計画の3年目に取り組んだ。「新型コロナウイルス感染」の影響を受け十分な活動ができなかった。

次年度は、第4期経営5か年計画の4年目として「地域貢献への積極的展開」、「利用者や地域から信頼され選ばれる施設を目指す」、「経営基盤の自立に裏付けられた自律経営を目指す」の3つを重点項目に掲げ、法人理念の5本柱をもとに第4期経営5か年計画を積極的に推進していく。適正な運営の維持について年度を通して、状況の把握及びセンターとの協議を重ねていく。

2 子どもの一人一人の育ちを尊重した保育の徹底

1) 子どもへの対応

本年度も引き続き、「短時間預かり」「不定期預かり」「単発預かり」という預かり形態の特徴を踏まえ、子どもたちがさくらルームでの時間を楽しく過ごし、次の登園を楽しみに通えるよう「制作遊び」を一人一人の発達に応じたものを用意した。子どもたちは熱心に取組み、作品の仕上がり喜び姿に成長を感じた。

2) 保護者への対応

預かり時の子どもの様子や家庭での様子を話合うことで育ちの共有ができた。育児に負担を感じている家庭が増えているが、さくらルームで楽しそうに過ごしていることに安心し、職員に対して信頼を寄せていただき、育児についての相談を受けることも多かった。より配慮が必要だと感じたケースは、その都度、センター職員に報告し、ともに保護者の支援を行った。

3) 安全で安心できる施設面における保育環境を整え、保育する

児童福祉法及び保育所保育指針に基づき、一人一人の子どもの健康の保持及び増進並びに安全の確保とともに、さくらルームの子ども全体の健康及び安全の確保を、西宮市こども未来センターと連携して取組んだ。

衛生管理対策については、日々の掃除・消毒に「新型コロナウイルス感染予防対策」も追加し、徹底した。

また、安全管理対策については、法人統一の「安全点検」の仕組みで毎月行い、不具合個所の状況確認・対応を適宜行った。その結果、さくらルーム内での怪我はなかった。

また、危機管理対策については、子どもたちの健康管理、衛生管理、安全管理に対しての不測の事態に平時から備え、こども未来センターが実施する消火・避難訓練にも積極的に参加した。

4) 感染症対策

昨年度発症した“新型コロナウイルス”感染拡大防止対応として、さくらルームにおいて“新しい生活様式”の取り組みが必要とされることを踏まえ、子どもの過ごす生活環境を衛生面の徹底行なった。

3 子ども主体の保育及び教育的視点を持った保育の充実

「緊急事態宣言」が解除となっても「まん延防止等重点措置」の発令が長引き、1日の預かりは4名が続いた。保育においては、子どもたちの健康確認を保護者とともに丁寧に行い、保育を実施した。預かり時間内の活動は、「ふれあいあそび」と「自由あそび」「制作あそび」を行った。「制作あそび」は毎月季節を感じる題材を選び、年齢に応じた制作活動を用意した。活動中の様子から発達の確認も行った。子どもたちは意欲的に活動に取組み、出来上がった作品を保護者に見せる姿は自信にあふれていた。帰宅後も作品を介して親子の会話が弾むとの報告をたくさん受けるので、次年度も引き続き行う。

4 地域の子育て支援活動の充実

さくらルームの適正な運営を目指し、こども未来センターと預かり状況について定例会議を開催したが、コロナ禍の下では延期・中止もやむを得なかった。子どもの育ちを共有し、保護者のニーズに合った、かつ、新型コロナウイルス感染予防対策にも十分配慮した環境での預かり体制を整えることができた。預かり体制については、西宮市から信頼を得ているが、適正運営が確保できるように協議をより一層重ねていかなければならない。

【西宮市子ども未来センターとの定例会議】

開催日	議事	参加者
令和 3 年 6 月 10 日	預かり児、保護者の情報共有、連携について	緊急事態宣言中のため延期
11 月 30 日	預かり児、保護者の情報共有、連携について	センター 4 名、さくらルーム 2 名
12 月 17 日	預かり児、保護者の情報共有、連携について	コロナ感染者が出たため中止
令和 4 年 2 月 16 日	預かり児、保護者の情報共有、連携について	まん延防止等重点措置発令のため中止

5 職員が成長する職場づくり

1) 法人基本理念の周知・徹底

本年度も、さくらルーム職員で法人基本理念に基づいた保育実践を遂行するために、職員定例会議を開催し、人権について考えた。課題の共有ができ、子どもの育ちに適切に関わることにつながった。

2) 職員のやりがいがある職場環境づくりに努める

スタッフ会議の中で衛生推進の話合いを行ない、働き方改革の有効的活用をし、働きやすい職場づくりを心がけた。

3) 新・保育所保育指針に基づく職員の資質向上の推進

施設内研修のテーマは「支援の必要な子どもと保護者を支える保育を考える part2」で、日々の預かり児の保護者とのやり取りから、育児に対する不安などの相談を受け助言等を行なった。制作遊びに取り組む姿を伝えることで子どもの成長に喜びを見出されていた。保護者に寄り添う支援ができた。

4) 園内委員会

法人職員として、西北セリジェ保育園の子育てサポート委員会に所属し委員会に出席にした。地域のニーズを知ることになったので、次年度も引続き活動に参加する。

5) 人事考課制度の効果的運用

業務に対する自己評価及び評価者との面接等を通して自己の業務についての分析、目的意識の明確化を図り、向上心を培うことができた。